災害情報

風水害について

土砂災害の種類

斜面崩壊（がけ崩れ）

急な崖地や山の斜面が突然崩れ落ちる現象を、斜面崩壊（がけ崩れ）といい、国内で最も件数の多い土砂災害です。

一瞬にして崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、被害が大きくなります。

このような被害を生じる恐れのある箇所を「急傾斜地崩壊危険箇所」といいます。

土石流

土石流とは、谷や斜面の土・石・砂が大雨による水とともに、一気に谷を流れ下る現象です。

スピードが速く破壊力も大きいため、大きな被害をもたらします。

このような被害が生じる恐れのある渓流（渓谷や小川）を「土石流危険渓流」といいます。

地すべり

粘土などの滑りやすい層の上にある斜面部が、しみ込んだ雨水等の影響などでゆっくり動きだす現象です。

一度に広い範囲が動くため、大きな被害をもたらします。

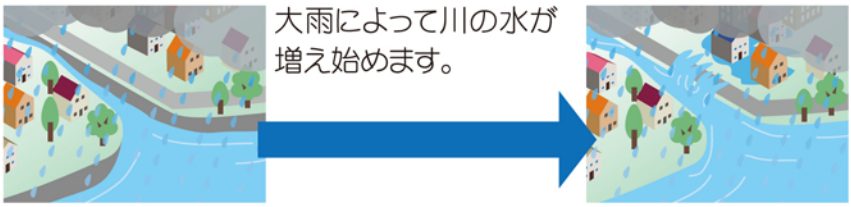
このような被害を生じる恐れのある箇所を「地すべり危険箇所」といいます。

大雨（洪水）の前兆　　洪水はん濫はどうやって起こるのか

舗装が普及した地域では、雨水が地中にしみ込みにくくなっていることも影響し、集中豪雨等により河川や下水の排水処理能力を超えた雨水は低い場所に集まり、短時間のうちに浸水します。

たとえ近くに川がなくても「水害」への注意が必要です。

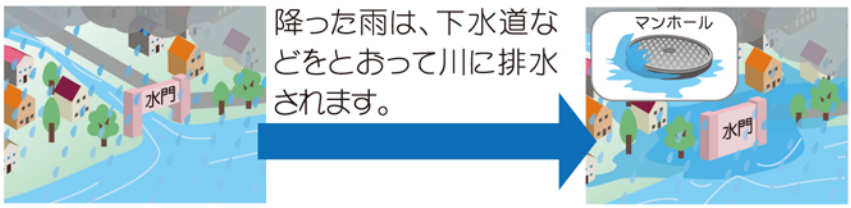
河川の水によるはん濫（外水はん濫）



大雨によって川の水が増え始めます。

水位が上昇し、川の堤防を越えて水があふれます。

河川に排水できない水によるはん濫（内水はん濫）



降った雨は、下水道などをとおって川に排水されます。

大雨が降ると川の水位が上がり、川に排水されずに下水道などから水があふれます。

下水道の排水能力を超える雨が降った場合にも、内水はん濫が発生するおそれがあります。